

第1回全国高校生1億円プロジェクト（億プロ） 募集要項

1. 趣旨

現在 SBP（ソーシャルビジネス・プロジェクト）に取り組む高校は、全国で70校以上と増えていきます。そして多くの SBP は、高校・地域・行政等と協力体制を取っており、地域の人材を育て、盛り上げる仕組みとして文部科学省等を中心に位置づけられています。

本プロジェクトは『明るい未来』をテーマに、全国の高校生が社会と繋がりながら協働し、自らがその活動するステージを生み出し躍動する『日本を元気にする未来創造プロジェクト！』です。

そして、SBP に取り組む全国の高校が連携することで、高校生が全国規模での取組を企画・参加できる仕組みを作ることができ、この取組みがさらなる高校生の成長とそれに伴う地域の活性化につながるものと考えています。

また、高校生を中心に周囲のサポートをする大人たちが、様々な課題に柔軟に対応しながら進めていき、将来この仕組みが全国で当たり前になった時には、より素敵な社会になっていると確信しています。

本プロジェクトは、そのような社会を目指し、『取組の披露・交流するステージを高校生自らが創り、全国の高校生が集まれる仕組みを作ることによって人材育成・地域活性化のモデルを構築する』ことの実証を目的として実施します。

2. 主催・後援

主催：一般社団法人未来の大人応援プロジェクト

「第1回全国高校生1億円プロジェクト実行委員会」

後援（案）：青森県教育委員会、五所川原市、鱈ヶ沢町、企業組合でる・そーれ、
特定非営利活動法人 十和田 NPO 子どもセンター・ハピたの

3. SBPとは

SBP は「Social Business Project（ソーシャルビジネスプロジェクト）」の略で、地域の課題などにビジネスの考え方や手法を用いて取り組んでいこうという挑戦です。具体的には高校生を中心とした未来の大人たちが、地域資源（ひと、モノ、自然、歴史、名所旧跡、産業等）と交流し、見直し、活用して“まちづくり“や”ビジネス”を提案していく、そしてその取組を地域で応援し支えていこうというものです。

SBP は、三重県多気町にある相可高等学校食物調理科が運営する高校生レストラン「まごの店」などを先進事例に、2013年4月に三重県立南伊勢高等学校南勢校舎で最初の SBP が立ち上がりました。今、この地域に根ざした取組みが全国に広がっています。

※詳しくは「12. 参考資料（2）SBPに関連する国等の動き」を参照
（その他の情報は一般社団法人未来の大人応援プロジェクト HP へ）

4. 『全国高校生1億円プロジェクト』の概要

以下の URL もしくは QR コードの一般社団法人未来の大人応援プロジェクト HP 内より、以下も併せてご確認ください。

- ・資料『説明資料① 全国高校生1億円プロジェクト ～未来の大人が未来を創る！～』、
『説明資料② 全国版セレクトギフトの作り方の流れ』をご確認ください。
- ・紹介動画『第1回全国高校生1億円プロジェクト PR 動画』

【第1回全国高校生1億円プロジェクトのページ】

https://mirai-otona.jp/okupro/?fbclid=IwAR2N1HiDOUYFm-BxJFRKaRMdviNrKsALY4zNsLQ1EwhGbL4F_63m6XHWUVO



5. 開催日程及び会場

(1) 企画運営等に関する web 会議

- ・頻度：月3～4回、1時間程度開催（学校の試験や行事等を考慮し開催）
- ・使用ソフト：Microsoft Teams（参加校にはアカウント配布）

(2) 宿泊

- ・日にち：令和3年8月3日（水）、4日（木）
- ・場所：鱒ヶ沢あじがさわキャンピングパーク（長平ながだいせい青少年旅行村しょうねんりょこうそん）

住所：〒038-2712 青森県西津軽郡鱒ヶ沢町長平町甲音羽山65
TEL：0173-72-1571

(4) 交流会

- ・日にち：令和3年8月4日（水）
- ・場所：五所川原市中央公民館（調理室、荷物置き場等）
住所：〒037-0016 青森県五所川原市字一ツ谷504番地1（五所川原市役所から徒歩5分程度）
TEL：0173-35-6056

(3) 五所川原立佞武多ごしよがわらたちねぶたでのブース出店

- ・日にち：令和3年8月4日（水）夕方（立佞武多初日）
- ・場所：五所川原市役所（庁舎西側スペース）
住所：〒037-8686 青森県五所川原市字布屋町41番地1

【大まかな行程案】

日程	時間帯	内容
令和3年 8月3日 (火)	日中	各高校、鱒ヶ沢町へ移動
	～17:00頃	前日入りの高校到着完了 ※合流ポイント①
	18:00頃	前夜祭(夕食会)
令和3年 8月4日 (水)	9:00	鱒ヶ沢町から五所川原市へ移動
	9:45頃	当日入りの高校到着完了 ※合流ポイント②
	10:00～14:00	交流会(昼食含む)
	14:00～16:00	会場移動・会場準備(食材の仕込み等含む)
	16:00～18:00	販売交流会
	18:00～20:30	会場片付け、五所川原立佞武多見学(各自夕食)
	20:30～	鱒ヶ沢町へ移動
令和3年 8月5日 (木)	9:00頃	振り返り・反省会
	10:30頃	解散

※基本的に参加する高校は、前日入りする「合流ポイント①」、当日合流する「合流ポイント②」のいずれかで、難しい場合は個別に調整いたします。

6. 参加対象

- ・SBPの趣旨に賛同でき、SBP活動として紹介しても良い高校生主体の団体（生徒会、農業クラブ等の部活動や授業内のプロジェクトのチーム、今回用にチームを結成など、高校の中でどのような枠組みでも可。また、高校の枠を越え他校と組織する団体も参加可）

※五所川原立佞武多の会場等で撮影される動画や写真は後日、当団体のホームページ等に掲載されることがあります。事前にご了承願います。

(注記) 全国高校生1億円プロジェクトにおける「高校生」について

下記の学校に在学している生徒とします（国立・公立・私立は問いません）。

- ・高等学校 ・中等教育学校の後期課程 ・特別支援学校の高等部 ・高等専修学校
 - ・高等専門学校（第1学年から第3学年まで） ・その他これらに準ずる教育機関
- ただし、科目履修生、聴講生等は対象となりません。

7. 本プロジェクトの進め方・各高校の役割

(1) 本プロジェクトを実施する上での基本的な考え方

本プロジェクトの運営は企業などからの協賛金をもとに行いますが、高校生への学び・成長の機会を一番に考え、企業から協賛金を集めることが目的とならないよう、高校生への主体性を尊重しながら方向性を確認しつつ取組を進めます。

また、全国版セレクトギフト作成においての高校への費用負担は無いものとし、協賛金の獲得目標額は設定しますが、それに対するノルマも無いものとし、

そして、全国版セレクトギフトは“協賛に対する返礼品”とし、協賛金については全て本プロジェクトの推進のための経費等に活用します。

取組を進める中で、もし協賛金の目標額に達しない場合はSBPの考え方に基づき、

①足りない運営経費を今後どのように獲得していくか？（別の方法を考える等）

②集まった金額の中でどのように実施していくか？（規模を縮小する等）

を議論しながら、プロジェクト推進の中での学びを重視しながら進めていきます。

ただし、必要な運営経費が足りない場合は、一般社団法人未来の大人応援プロジェクトが中心となりその不足分を補うものとし、

(2) 本プロジェクトの進め方

①『第1回全国高校生1億円プロジェクト実行委員会』と称し、高校生主体の実行委員会形式をとり進めていきます。

②本プロジェクトの幹事高校を決めます。（今回の幹事高校：青森県立鱒ヶ沢高校）

③参加する高校を各県別にグループ化し、各県ごとの代表高校を決めます。

④実行委員長は本プロジェクトの幹事校である青森県立鱒ヶ沢高校生徒とし、その他の参加する高校の代表1名を委員として名簿に記載させていただきます。

*実際の活動は、参加する全生徒で行います。

*担当の教員や各自治体の職員等もサポートメンバーとして、実行委員会の名簿に記載させていただきます。

(3) 各高校の関わり方の例

各高校についての本プロジェクトへの関わり方は、以下の3通りを中心に各高校との相談のもと調整をしていきます。

【各高校の役割】

①実行委員会に参加し、企画・運営からの参加（フル参加）

	項目	概要
ア	Web 会議での進捗報告・企画検討	Web 会議へ各高校の委員の参加 (代理やその他メンバーの参加も可)
イ	全国版セレクトギフトの企画、作成、PR 活動等	都道府県ごとでの商品の選定、パンフレットの記事作成、各高校と連携した商品発送・受け取り等の封入作業、協賛に向けたプレゼン、購入者への配達など
ウ	交流会の企画・運営	交流会の内容等の企画や当日の運営・参加
エ	五所川原立佞武多でのブース出店の企画・運営	全体のコンセプトや各ブースの内容、当日現地に参加できない高校へのフォローなどについての検討、ブース出店
オ	各種情報発信	各都道府県でのプレスリリース、各自治体や地域等と連携した情報発信
カ	その他	web 会議等の議論を踏まえ必要とされる作業等

②五所川原立佞武多当日のブース出店・交流会のみの参加

	項目	概要
ア	Web 会議での進捗報告・企画検討	Web 会議へ各高校の委員の参加 (代理やその他メンバーの参加も可)
イ	協賛企業の発掘・依頼	応援していただける企業等への協賛に向けたプレゼン
ウ	大交流会への参加	大交流会の内容等の企画や当日の運営・参加
エ	五所川原立佞武多でのブース出店	当日のブース出店、ブース運営のサポートなど
オ	各種情報発信	各都道府県でのプレスリリース、各自治体や地域等と連携した情報発信
カ	その他	web 会議等の議論を踏まえ必要とされる作業等

③web 会議での企画等への参加（五所川原立佞武多当日は不参加）

	項目	概要
ア	全国版セレクトギフトの企画、作成、営業活動等	都道府県ごとでの商品の選定、パンフレットの記事作成、各高校と連携した商品発送・受け取り等の封入作業、販売に向けたプレゼン、購入者への配達など
イ	五所川原立佞武多でのブース出店の企画	当日現地に参加せず関わる手段の検討
ウ	各種情報発信	各都道府県でのプレスリリース、各自治体や地域等と連携した情報発信
エ	その他	web 会議等の議論を踏まえ必要とされる作業等

8. 参加費等

本プロジェクトへの参加費は無料です。その他かかる費用についての負担については以下の通りです。その他の費用については随時事務局と相談をいただければと思います。

【本プロジェクトでの費用等の分担】

項目	具体的な内容	事務局	各高校
web 会議での企画等の協議	Microsoft Teams のアカウント発行	○	
	PC、ネット環境等の整備		○
全国版セレクトギフトにかかる費用 ※作り方については『説明用資料』参照	各商品の購入費	○	
	箱代、商品紹介パンフレット印刷費	○	
	各都道府県への商品郵送にかかる送料	○	
	企業等でのプレゼンにかかる交通費	○	
五所川原立佞武多 当日の交通費	現地までの交通費		○
	現地到着後の移動にかかる交通費 (鱒ヶ沢町⇄五所川原市のバスなど)	○	
販売会での商品等	販売する商品、原材料など		○
	テーブル、椅子、ガス台などブース設営の備品	○	
宿泊費・食事	宿泊費 (2泊)		○
	行程内の朝食、昼食、夕食の費用 (8月3日(火) 夕食 8月4日(水) 朝食、昼食、夕食 8月5日(木) 朝食)	○	△ 8月4日 (水)の 夕食のみ
その他	イベント保険	○	
	参加校全体に必要な消耗品等	○	
	その他協議の上必要な備品類	○	

9. 応募について

(1) 応募方法

「未来の大人応援プロジェクト」ホームページから応募用紙をダウンロードし、

info@mirai-otona.jp（担当：中沢）まで送付しお申し込みください。

お申し込み後に、web 会議参加にあたってのアカウントを発行致します。

（発行するアカウントは Microsoft Teams のアカウントになります。第 5 回全国高校生 SBP 交流フェアに参加された高校は既に発行済です。）

【第 1 回全国高校生 1 億円プロジェクトのページ】

https://mirai-otona.jp/okupro/?fbclid=IwAR2N1HiDOUYFm-BxJFRKaRMdviNrKsALY4zNsLQ1EwhGbL4F_63m6XHWUV0



(2) 応募締切（第 1 期）

2021 年 1 月 29 日（金）

※募集状況に併せ第 2 期を募集予定です。随時ご相談ください。

(3) 応募に当たっての留意事項

・ご提供いただいた情報及び今後ご提供いただく情報の利用目的は、次のとおりです。

① 御本人の確認

② 応募の受付時の情報（団体名、代表者名、活動内容等）をホームページ等で紹介することがあります。

③ アンケートの実施等による調査・研究及び参考情報の提供

・web 会議の様子や当日の活動の様子など関係者が撮影した写真や動画につきましては、広く SBP 活動を紹介するためホームページ等で公開し利用させていただきます。

(4) 応募後の連絡

応募いただいた団体の代表者に個別にご連絡をし、アカウント発行・使い方等の案内をさせていただきます。

10. 応募から参加までの流れ・スケジュール

本プロジェクトの不明な点の質疑応答のため、電話・メールでのお問い合わせのほか、必要に応じて個別にweb説明会を実施することも可能です。事務局までお問い合わせください。

【スケジュール（現時点）】

- (1) web説明会：随時
- (2) 応募締切：2021年1月29日（金）※プロジェクトへの途中参加も可
- (3) 一般向けのプレスリリース・協賛募集開始：2021年2月頃
- (4) 全国版セレクトギフトの完成・配達開始：2021年5月頃
- (5) 五所川原立佞武多へのブース出店・交流会：2021年8月3日（火）～5日（木）
- (6) 反省会・振り返りweb会議：2021年8月中

11. お問い合わせ先

■事務局：一般社団法人未来の大人応援プロジェクト

担当：中沢

メールアドレス：info@mirai-otona.jp

電話：080-1809-2003（中沢携帯） 住所：〒516-0074 三重県伊勢市本町8-11

HP：<https://mirai-otona.jp/>

■高校代表（幹事校）鱒ヶ沢高校 SBP研究会

担当：木村、奈良、小山内

電話：0173-72-2106（代）

■行政代表：鱒ヶ沢町役場 鱒ヶ沢町役場 政策推進課

担当：吉田、長谷川、佐藤

電話：0173-72-2111（代）

12. 参考資料

(1) 第1回全国高校生1億円プロジェクトのメディアへの掲載

①東奥日報(11月6日(金))

津民 2020年(令和2年)11月6日 金曜日

全国の高校生協力 名産品ギフト

鮭ヶ沢高企画、販売けん引



全国の高校生が協力して各地の名産品を詰め合わせたギフトを企画、販売するプロジェクトを、鮭ヶ沢町の鮭ヶ沢高校(成田弘行校長)が中心となって始めることになり、生徒らが2日、県庁に県教育委員会の和嶋延寿教育長を訪ね、概要を説明した。1年目は年間売上高1千万円を目標に、12月末まで参加校を募り、2021年に販売する。

◇(新村菜穂)

売り上げを活用して、21年の五所川原立佞武多に全国の高校生が交流するブースを展開するのが目標。ギフトの内容など詳細は、各地の参加校をつないでオンライン会議を開き決めて、地元企業や行政

プロジェクトを説明する鮭ヶ沢高の櫻庭さん(左)と山下さん(右)

来月末まで 参加校募集 立佞武多に交流の場を

機関に協力を依頼してプロジェクトを実行していくという。取り組みを通じ、生徒の成長と地域の活性化を図る。

実行委員長の山下麗緒菜さん(2年)は「ギフトを通じて多くの人々が、鮭ヶ沢町や青森県に興味を持ってくれたら」と話した。

和嶋教育長は「全国の高校と横のつながりを広げる取り組みは、本県ではこれから。これからの本県の高校生の学びを先行してやっていただいている」と話し、生徒たちにエールを送った。

地域課題をビジネスの手法で解決する「ソーシャルビジネスプロジェクト」(SBP)の研究会でリーダーを務める櫻庭えりなさん(3年)は「高校生のうちから本格的なビジネスに挑戦できるのはうらやましい。卒業後もサポートしたい」と語った。

プロジェクトは実行委員会が主催し、一般社団法人「未来の大人応援プロジェクト」が事務局として支援する。

全国高校連携セレクトギフト販売プロジェクト

1億円へ「最高の舞台を」



1億円プロジェクトは、ト主演、全国の高校が連携、未来の大人応援プロジェクトとして特産品などを詰め合わせた。

「1億円プロジェクト」の事業内容を説明する桜庭さん(右)と山下さん(左)

鮎ヶ沢高SBP研究会

五所川原で 県教育長に抱負

地域連携ビジネス手法によって解決するSBP(地域ビジネス創出プロジェクト)に取り組み、鮎ヶ沢高校のSBP研究会が、全国の高校と連携してセレクトギフトを販売する「1億円プロジェクト」を進めている。研究会の生徒らは7日、県教育庁と和崎近野教育長を訪ね、事業概要を報告した。

(吉沼 伸彦)

もち麦を学校給食に

つがる市農産物振興課の職員が、つがる市立五所川原市に、もち麦を学校給食に導入することを報告した。

つがる市農産物振興課の職員が、つがる市立五所川原市に、もち麦を学校給食に導入することを報告した。

五所川原市 五所川原市に奇贈

つがる市農産物振興課の職員が、つがる市立五所川原市に、もち麦を学校給食に導入することを報告した。

つがる市農産物振興課の職員が、つがる市立五所川原市に、もち麦を学校給食に導入することを報告した。

五所川原市 五所川原市に奇贈

つがる市農産物振興課の職員が、つがる市立五所川原市に、もち麦を学校給食に導入することを報告した。

つがる市農産物振興課の職員が、つがる市立五所川原市に、もち麦を学校給食に導入することを報告した。



https://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/topic_20201102.html

(2) SBPに関連する国等の動き

- ①「第5回全国高校生SBP交流フェア」について（毎年8月に開催）
日時：2020. 8. 21（金）～22（土） 場所：皇學館大学
主催：（社）未来の大人応援プロジェクト「未来の大人応援プロジェクト実行委員会」
後援：文部科学省、総務省、農水省、経産省、南伊勢町他
- ②「一億総活躍社会の構築に向けた提言」（2017年5月10日）（自由民主党一億総活躍推進本部）
内容：「高校生や大学生が地域の課題を実際にビジネスの手法を用いて解決する取組（SBP：Social Business Project）は、若者の起業への意欲・関心向上や地域への定着を図る観点からも効果的である。」と提言。
- ③「教育再生実行会議第十次提言」（2017年6月1日 教育再生実行会議決定）
内容：「地域の教育力を向上させていくための一つの方策として、高校生らがビジネスの手法等を学び、地域の大人とともに地域課題を解決する取組等を促進、支援する。」と提言。
- ④「まち・ひと・しごと創生総合戦略2017（改訂版）」（2017年12月22日 閣議決定）
内容：「高校生らが地元地方公共団体や関係者と連携しながら、地域の課題をビジネスの手法を用いて解決していく「地域ビジネス創出事業（SBP：Social Business Project）」の取り組みを促進、支援する。」
- ⑤「平成29年度 地域政策等に関する調査研究報告会（SBPの取組）」
（2018年6月7日 文科省）
内容：2017～2019年度の3か年にわたり、文科省はSBPに取り組む団体等を対象に、取組による成果や、人材育成に関する効果を検証するとともに、今後取組を行う可能性のある潜在地域も含め、幅広く事例を調査・分析することにより、若者の学びを通じた地域ビジネス創出に当たって必要となる推進体制及び政策的支援の在り方を検討し、全国普及を図ることを目的に実施。
- ⑥「中央教育審議会 生涯学習科会」においてSBPについての発表（2018年7月23日 文科省）
内容：中教審にてSBPに関するプレゼン。
- ⑦「SBPに関する映像教材の制作」g a c c o（2018年12月4日 講座開講）
内容：NTTドコモ、文科省、皇學館大学、未来の大人応援プロジェクトが協働し、SBPを全国に紹介するための映像教材を制作する。 映像教材：6分間×21本
- ⑧「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた 社会教育の振興方策について」（答申）
（2018年12月21日 中央教育審議会）
内容：前述の「中央教育審議会 生涯学習科会」にて行ったSBPについてのプレゼン（2018年7月23日）を受けて、大臣に手交で答申された。
抜粋）高校生の地域との関わりを強化する。特に、高等学校教育改革の観点から、社会教育の人的資源を生かしながら、地域の様々な課題を学び解決に向けた行動を起こす取組を通じて、高校生の学習意欲の向上、地域への愛着を育む機会を設ける。例えば、ソーシャルビジネスの手法により地域の課題を解決する取組（*1）や、高等学校と地方公共団体、大学や専門学校等が協働して地域での系統的な教育を行い、地域を担う人材を育成する取組等は有効と考えられる。

*1) 生徒が地域の資源を学び、見直し、その成果を活用するとともに地域の支援も受けて、ソーシャルビジネスの手法により地域の課題を解決していく取組（SBP：Social Business Project）。全国初の事例となった三重県立南伊勢高等学校では、SBPの取組（セレクトギフト（町の特産品の詰め合わせ）、ご当地シンボルキャラクターを使ったたい焼きの企画・販売）をきっかけに、廃校の危機を脱したのみならず、高齢化と人口減少に悩む町の活性化にも大きく寄与した。